

夏の彩り

近世と益田家の花火

近世に発展し全国に広まった花火。

益田家も藩主毛利家を花火と料理でもて

なした。須佐の夏の風物詩「花火」は時代を

超えて人々に愛される。



日時 令和4年

8月11日(木・祝) ~ 10月10日(月・祝)

9:00~16:30 (最終入館時間16:00)

場所 萩市立須佐歴史民俗資料館「みこと館」

主催	萩市
休館日	月曜日、祝日の翌日
入館料	大人310円・子ども150円 (団体20人以上大人210円)
所在地	〒759-3411 山口県萩市大字須佐4441-10 ☎08387-6-3916



(右) 隆安流射場并花火稽古次第覚(個人蔵 山口県文書館寄託)

(左) 花火秘伝集(慶應義塾大学三田メディアセンター蔵)

夏の夜空を彩る光 花火に魅せられたのは 江戸時代も同じだった

日本で花火鑑賞が盛んになったのは近世に入ってからである。
花火の技術は中国(明)から渡来したもので、江戸時代には技術の伝播とともに技術書が作成され、武家でも狼煙や大筒の技術を発展させ、打ち上げ花火が作られた。
益田家では元禄11年(1698)8月10日、当主の益田就賢が萩城下のはずれにある松木屋敷に藩主の毛利吉広を招待し、豪勢な食事を提供し花火を打ち上げもてなした、という記録が残されている。
今年も新型コロナウイルスの影響により、須佐湾大花火大会のほか、多くの花火大会が縮小・中止となってしまった。
花火の歴史を通じて、夜空を彩る花火に想いを馳せてはいかがだろうか。

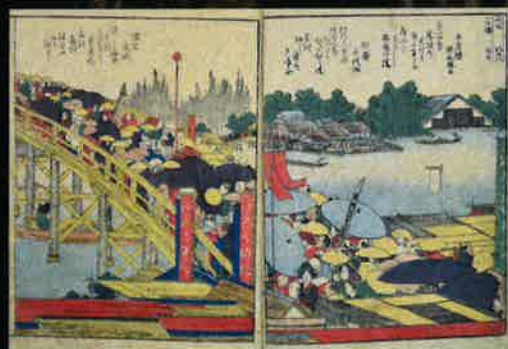


毛利吉広像 (毛利博物館蔵)

主な展示品



花火秘伝集
(慶應義塾大学三田メディアセンター蔵)



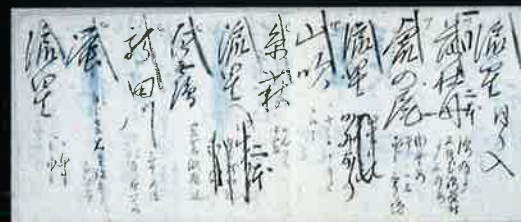
絵本隅田川兩岸一覽
(慶應義塾大学文学部古文書室蔵)



益田家家紋入唐草金蒔繪膳部
(当館蔵)



益田就賢書状
(当館蔵)



隆安流射場并花火箱古次第覧 (9月9日まで原本展示)
(個人蔵 山口県文書館寄託)